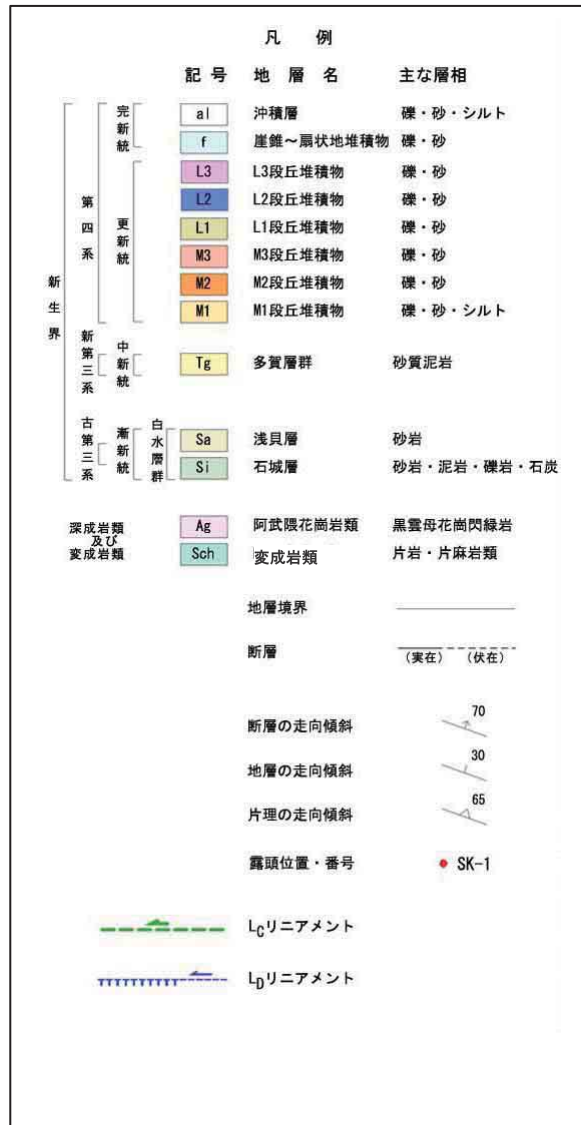
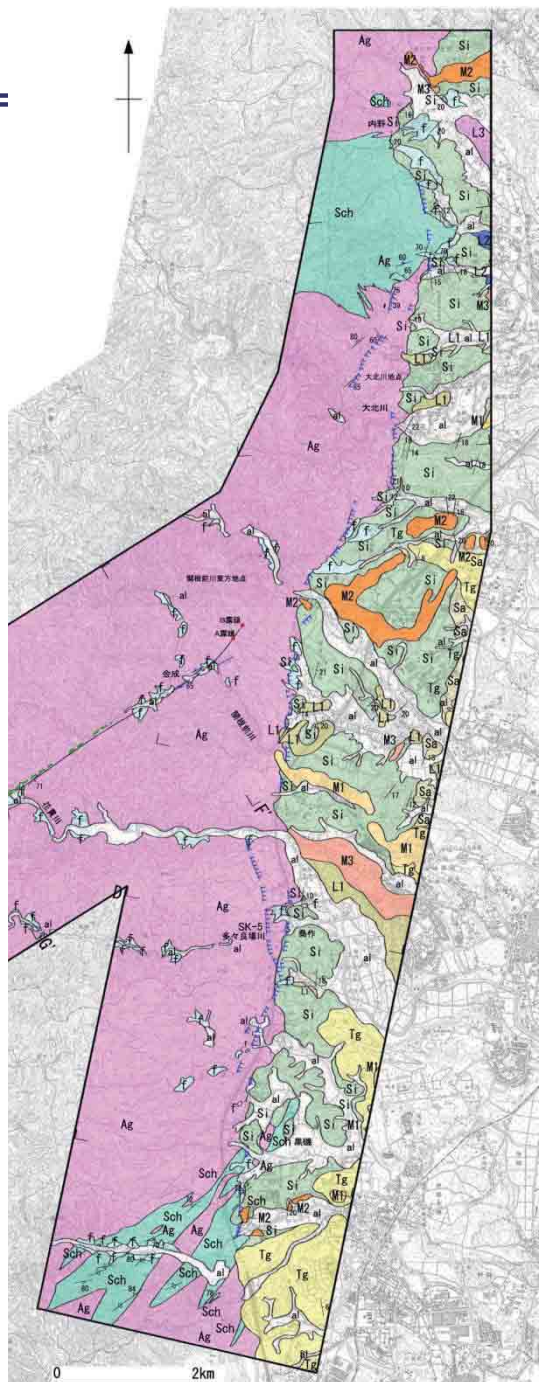


地質平面図 (1)

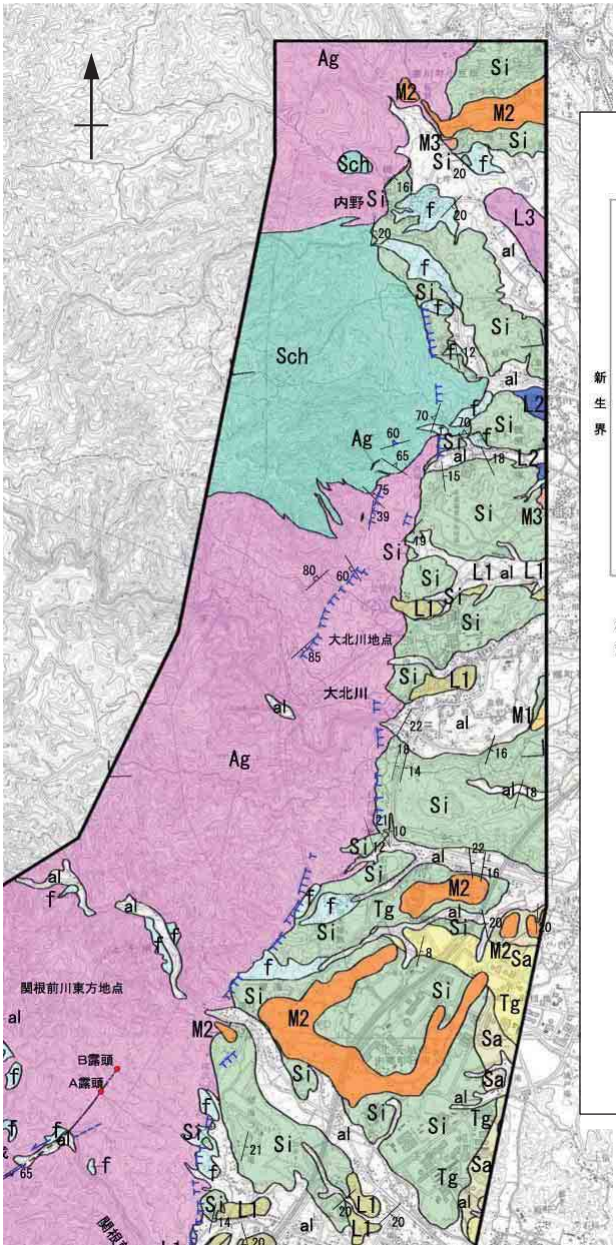


・リニアメントの西側には主として阿武隈花崗岩類が、東側には主として古第三系の石城層が分布。

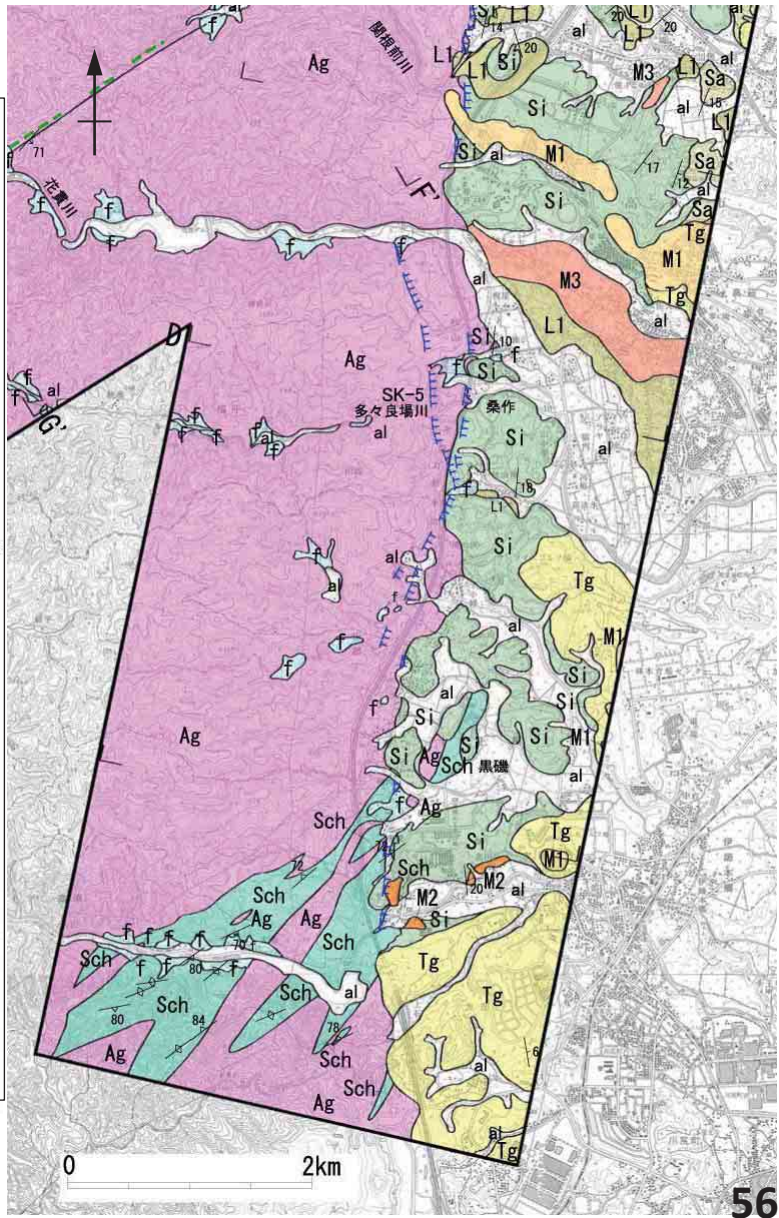
地質平面図 (2)

北部

南部

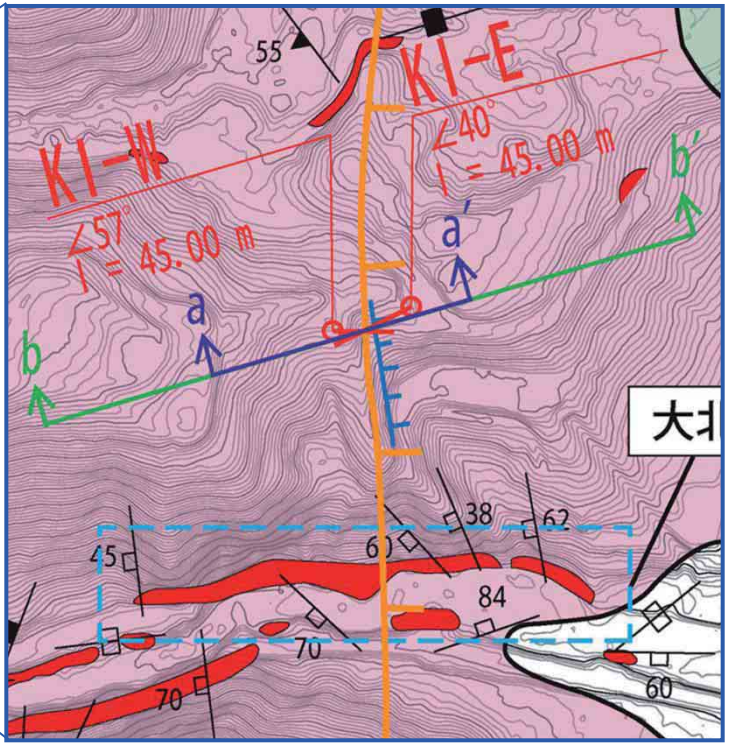
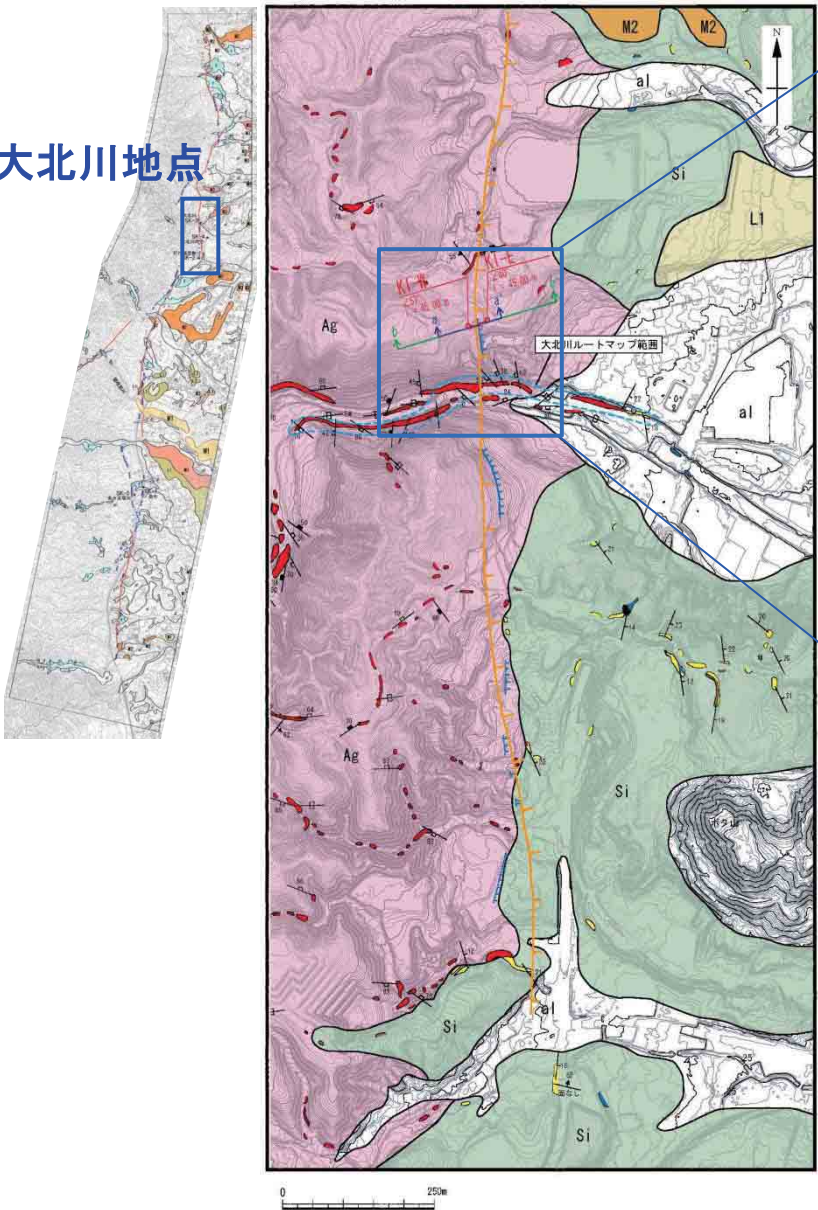


凡例		
記号	地層名	主な層相
al	沖積層	礫・砂・シルト
f	崖錐～扇状地堆積物	礫・砂
L3	L3段丘堆積物	礫・砂
L2	L2段丘堆積物	礫・砂
L1	L1段丘堆積物	礫・砂
M3	M3段丘堆積物	礫・砂
M2	M2段丘堆積物	礫・砂
M1	M1段丘堆積物	礫・砂・シルト
Tg	多賀層群	砂質泥岩
Sa	浅貝層	砂岩
Si	石城層	砂岩・泥岩・礫岩・石炭
Ag	阿武隈花崗岩類	黒雲母花崗閃緑岩
Sch	変成岩類	片岩・片麻岩類
地層境界		
断層		
(実在) (伏在)		
断層の走向傾斜		
地層の走向傾斜		
片理の走向傾斜		
露頭位置・番号		
● SK-1		
Lcリニアメント		
Lpリニアメント		



大北川地点の地質図及びボーリング調査位置図

大北川地点

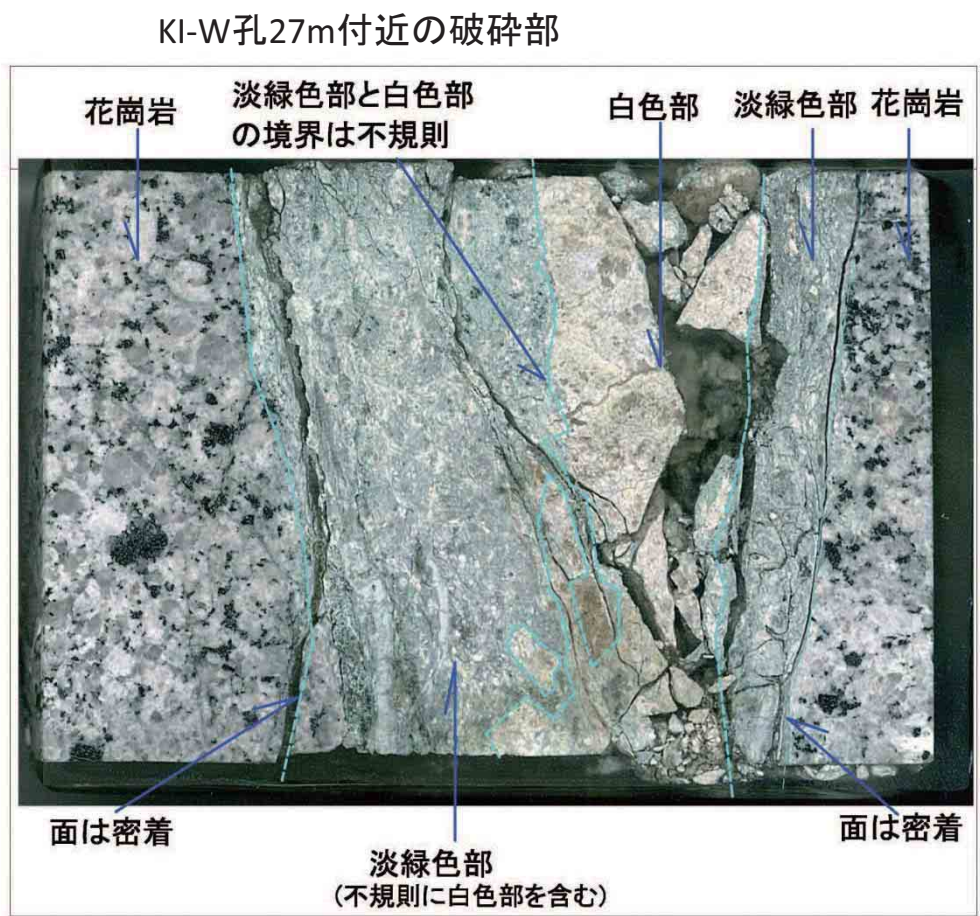
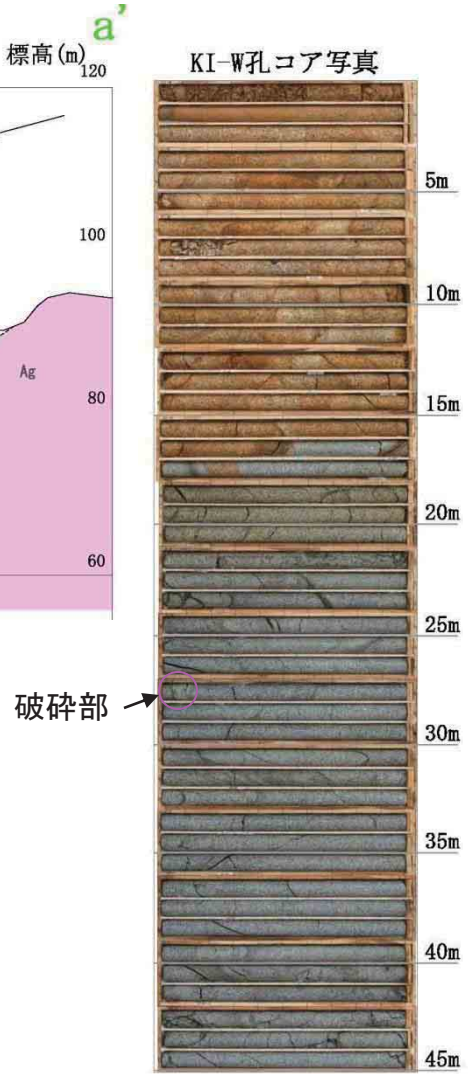
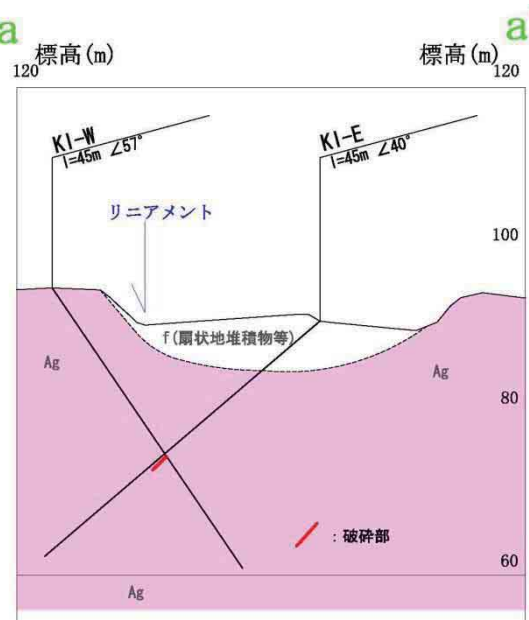


第四紀	完新世	沖積層	al	礫、砂、シルト、粘土	23 地層の走向・傾斜 23 節理の走向・傾斜 23 剪断性節理の走向・傾斜 23 貫入面の走向・傾斜 23 変質脈の走向・傾斜 地層境界 地質断面図位置 Ldリアメント	露頭 砂岩 泥岩 礫岩 褐炭 花崗岩
	更新世	段丘堆積層	M3	M3段丘堆積層(堆積物は未確認)		
			M2	M2段丘堆積層(堆積物は未確認)		
古第三紀	漸新世	石城層	Si	砂岩(礫岩、泥岩および石炭を含む)	23 地層境界 地質断面図位置 Ldリアメント 活断層詳細デジタルマップによる推定活断層の位置	
	中生代	白亜紀	阿武隈花崗岩類	黒雲母花崗岩		

ボーリング

大北川地点のボーリング調査結果(破碎部の性状)

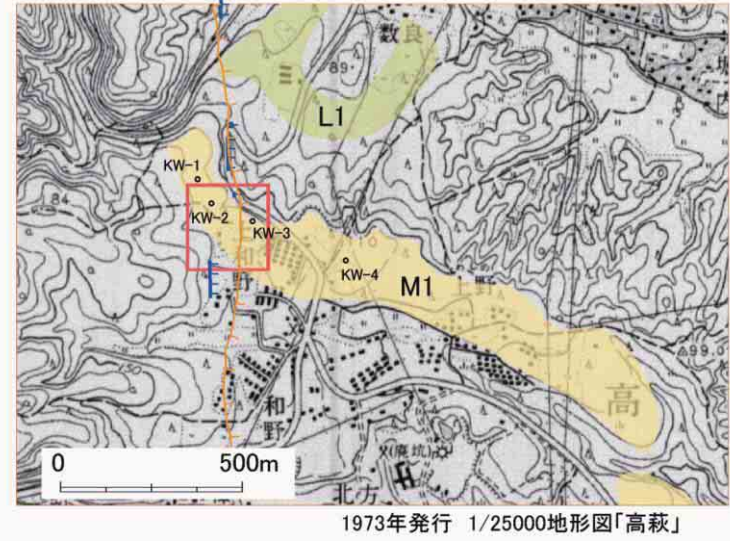
破碎部は全体に固結しており、これを切断する新期の断層面は認められない。



上和野地点のM1面に関する検討



上和野地点



凡例

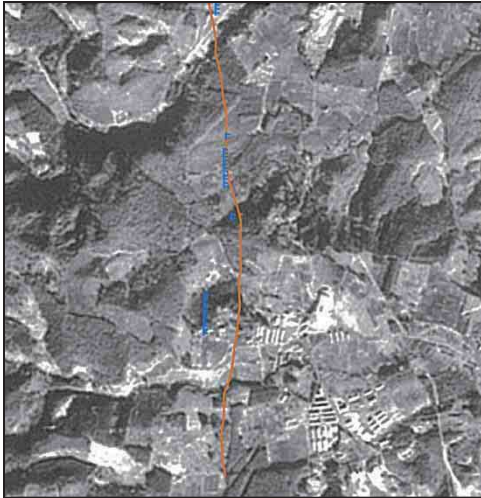
- L1面
- M1面
- L₀リニアメント
- 活断層詳細デジタルマップの推定活断層
- ボーリング調査位置

現在の地形では、人工改変により、リニアメント位置においてM1面に変動地形があるか否かが評価できない



1947年の空中写真から地形図を作成し、変動地形の有無を確認。

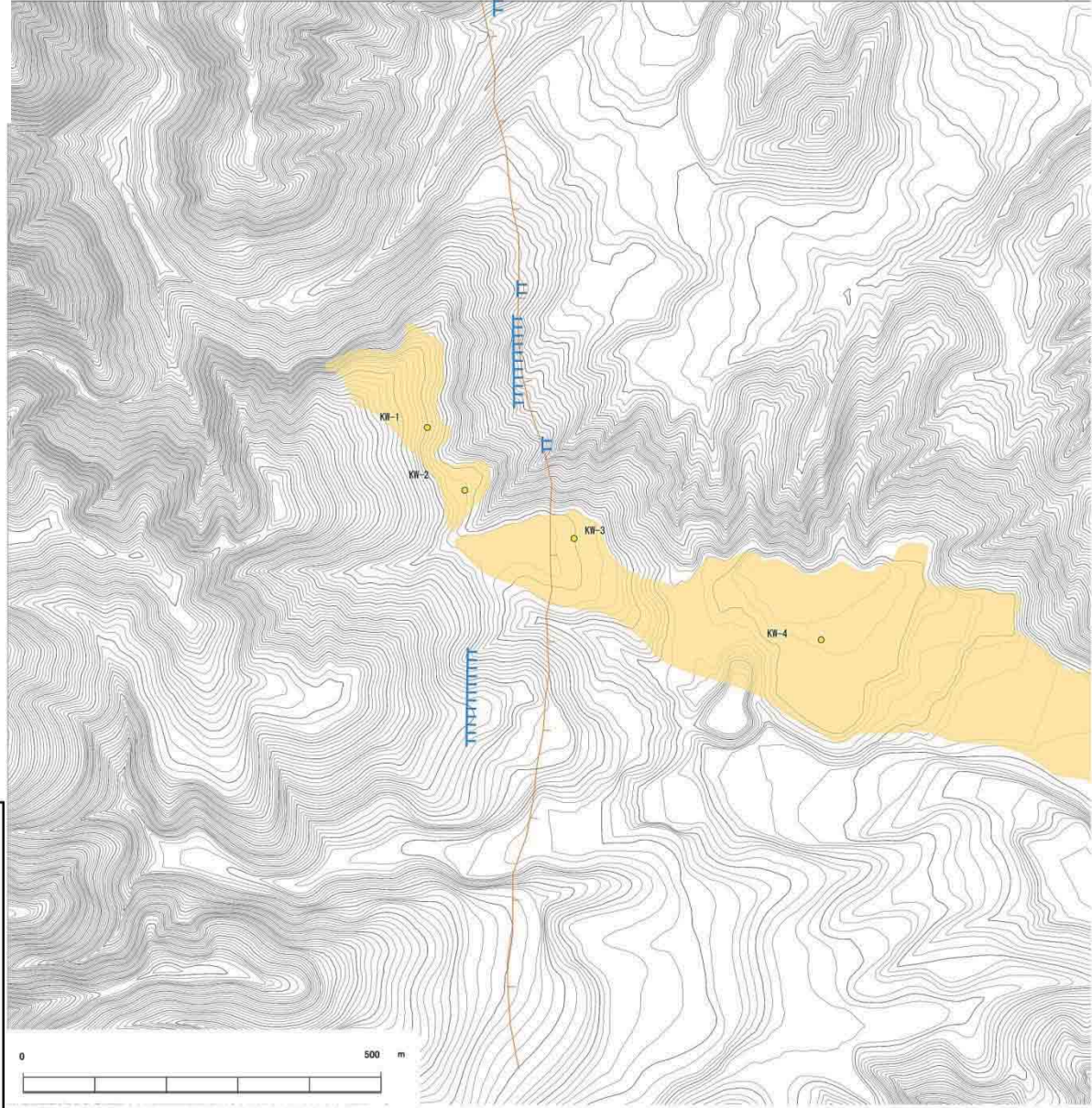
上和野地点のM1面の地形図(1)



国土地理院(1947年, 米軍撮影)



写真全域の地形図を作成



上和野地点

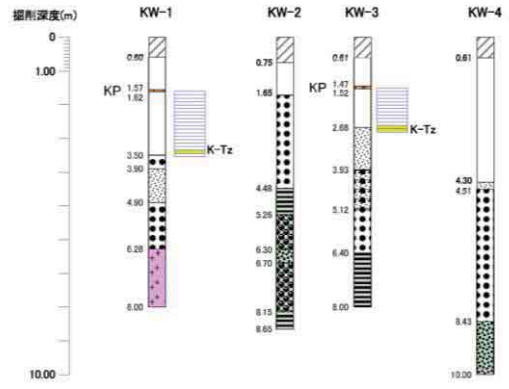
凡例

- L1面
- M1面
- L_Dリニアメント
- 活断層詳細デジタルマップの推定活断層
- KW-1
ボーリング調査位置

※等高線は1m間隔、太線は5m間隔

上和野地点の地形断面

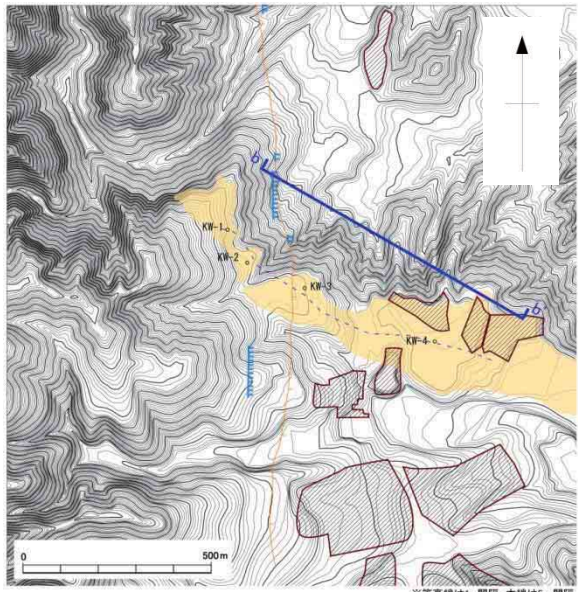
ボーリング調査結果



※ KP: 赤城鹿沼テフラ (A_g-KP, ≥45,000年; 町田・新井編2003)
 K-Tz: 鬼界葛原テフラ (約95,000年前, 町田・新井編2003)
 火山灰試料は10cm間隔で採取

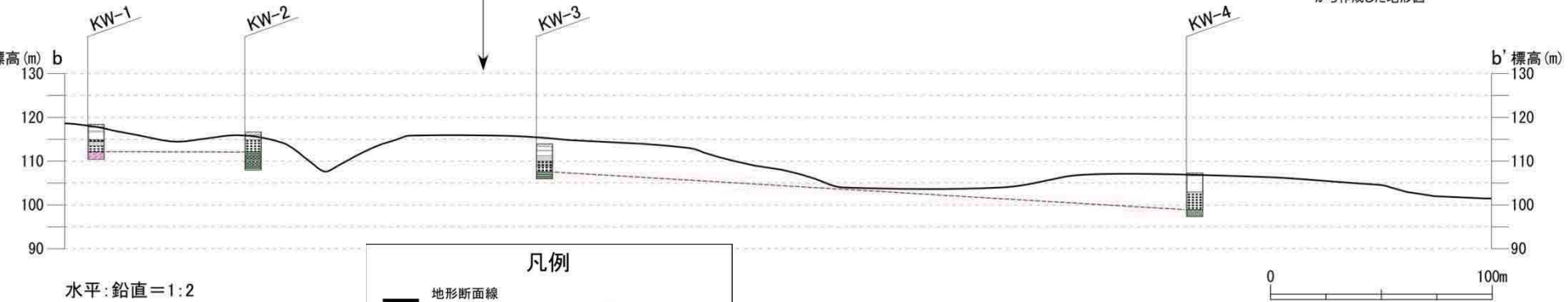
凡例

- M1面
- リニアメント
- 活断層詳細デジタルマップの推定活断層
- KW-1 ボーリング位置
- 改変地 (1947年)
- 断面線
- 地形断面の投影線



空中写真(国土地理院, 1947年米軍撮影)から作成した地形図
※等高線は1m間隔, 太線は5m間隔

活断層詳細デジタルマップ (推定活断層)



水平: 鉛直 = 1:2

茶色破線は段丘堆積物(砂礫層)の下限。
 断面線と等高線の交点をb-b'線に投影し作成。

凡例

 地形断面線 <small>※KW-2より左側は2mメッシュDEMから作成</small>	 風化火山灰
 表土	 礫混じり砂
 砂および砂シルト互層	 礫岩
 礫および砂礫	 粗粒砂岩
 シルト岩	
 白亜系 阿武隈花崗岩類	

・空中写真から作成した地形断面によれば、KW-3およびKW-4付近のM1面は東に緩やかに傾斜している。

・また、ボーリング調査結果によれば、M1段丘堆積物基底は地形と概ね調和的である。

関口一黒礫リニアメントの評価

- リニアメントを横断するM1面は連続的に分布しており、変形は認められない。
- リニアメント直下においてボーリング調査を行った結果、一部で断層破碎部が認められたものの、その性状は古く、連続性も乏しいことを確認。



関口一黒礫リニアメントは、地層境界に概ね一致しており、主としてこれらの侵食に対する抵抗性の差を反映したものと考えられる。